

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立青嶺中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度では、伊万里市内トップの成績を誇っていた学力が、令和元年度には、かなり後退した。学習時間も、伊万里市内でも非常に少なく、家庭学習の充実も含む学力向上は喫緊の課題である。</li> <li>学校、家庭、スクールカウンセラー、医師との連携で、すべての不登校傾向の子ども達に改善が見られた。</li> <li>教師のはたらき方改革では、部活動の休みを増やしたり、水曜日を定時退勤推進日にしたり、また、メリハリを意識した仕事をする事で、職員の超過勤務時間は平均39.5時間であった。超過勤務時間、年間360時間以内は達成できなかった。</li> </ul>
2 学校教育目標	望ましい人間関係を育み、自ら考え自ら行動する生徒の育成を図る。
3 本年度の重点目標	<p>①家庭での学習習慣を身につけさせるとともに、学習に対する「非認知能力」「粘り強さ」「自己調整力」を育てることで、自分をコントロールして学習に向かう生徒を育成する。また、家読を推進するために、読書量を増やす。</p> <p>②「考え、議論する」道徳と人権・同和教育を充実させることで、いじめや問題行動、不登校に対応する。</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		学校関係者評価		主な担当者
(1)共通評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 自主学習テキストで家庭学習の質的改善、目標・中間振り返り・振り返りで自己調整力やメタ認知能力を育成	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○AAI検査のメタ認知のクラス平均値が前年度を上回る	●自主学習テキストを導入する。 ●各教科授業の振り返りを欠かさず行う。 ●テスト計画や行事の振り返りに、目標と中間振り返りを加え実施する。	B	●自主学習テキストを各学年導入し取り組んでいる。 ●多くの教科で振り返りを行っている。 ●目標設定と中間振り返りを含むテスト計画を実施した。また、体育大会など2学期の行事にメタ認知を高める手立てをいれたワークシートを開発した。	A	●自主学習テキストを各学年導入し取り組んだ。 ●多くの教科で振り返りを行い、62.3%の生徒が授業の最後に振り返りをおこなっている。また、 ●目標設定と中間振り返りを含むテスト計画を実施した。中間振り返りと最終振り返りを行ったと答えた割合は、90.5%であった。 ●AAIのメタ認知の平均値は、全国平均を超えたが、昨年度を超えられなかった。2、3年生の女子は全国に対して+5ポイントを超えた。	A	●問題集(自主学習テキスト)を導入したことで、効果的に、また、効率よく家庭学習が行えるようになっている。 ●ICT機器等を活用した情報活用能力は、実社会においても、必ず必要な能力である。	学力向上対策コーディネーター(研究主任)
	○自問清掃と自問ノートによる非認知能力の育成 ○家庭学習の充実	○全職員が生徒と共に自問清掃に取り組み、自問ノートを100%返事を書く。 ○毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合90%以上	●毎日担当掃除場所を自問清掃を行い、清掃中考えたこと、気づいたこと、意識した5つの清掃について書かれた生徒の自問ノートに全職員で返事を書く。 ●育友会と連携して、スマートフォンのルールづくりと家庭学習のルールづくりを行う。	C	●自問ノートは、100%の生徒が記入し、それに対して、職員が手分けして、コメントを書いている。さらに、深いことが書けるよう、工夫が必要である。 ●毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合は、60.7%であった。 ●育友会と共に、家庭の学習ルール(スマートフォンやゲームなども含む)づくりを行った。「守れている」「概ね守れている」と回答した生徒は、89.5%であった。	B	●全職員が自問清掃に取り組み、その中で、自分が考えたり、思ったことを生徒たちは自問ノートに書いた。また、職員も毎日、自問ノートを見て、コメントやアドバイスを書いた。 ●毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合は、中間段階より6%伸びて66.7%であった。3年生は96.2%、毎日1時間以上学習を行った。(H30年度の全国平均では70.4%) ●家庭の学習ルール(スマートフォンやゲームなども含む)づくりを行った。「守れている」「概ね守れている」と回答した生徒は、90.0%であった。	B	●自問ノートの取り組みでは、素直な心や我慢する心が育成されるだけでなく、文章を書いたり、漢字を使ったりするので、他にも、様々な効果が期待できる。 ●生徒が書いた自問ノートに、毎日、全員にコメントを先生方が手分けして書いてあるが、大変だと思う。	学力向上対策コーディネーター(研究主任)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒70%以上 ○行事後の振り返りでの肯定的な自己の振り返り90%以上	●人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施する。 ●「考え、議論する」道徳の授業づくりに関する校内研修等の実施する。 ●保護者や地域と連携した「赤ちゃんふれ合い体験」を実施する。(3年) ●各教科のリーダーを自分で立候補させ、また、すべての子どもに積極的に参加させると、自己有用感、自己存在感を育てる。	B	●道徳に関するアンケート項目において、「自分で考え、他と議論する」授業に積極的に参加していると回答をした生徒91.1%であった。 ●「考え、議論する」道徳の授業におおむね積極的に参加していると回答をした生徒81.1%以上であった。 ●大きな学校行事については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現時点では行っていない。	A	●道徳に関するアンケート項目において、「自分で考え、他と議論する」授業に積極的に参加していると回答をした生徒91.1%であった。 ●「各行事や委員会活動、係活動などに積極的に参加していますか?」のアンケート項目は、92.2%の生徒が積極的に参加していると回答した。 ●「自分によいところがあると思う」というアンケート項目では、65.6%の生徒が「ある」と回答している。ただし、平成30年度の全国平均は、78.8%であり、自己感情を高める手が必要である。 ●「人の役に立つ人間になりたい」と思っていますか?の項目では85.5%の生徒が「当てはまる」と回答した。(H30年度の全国平均は94.9%) ●定期的な人権講話、12月の人権習慣の取り組み、道徳や特活を使った人権に関する授業を取り組み、生徒の人権意識を高めた。 ●体育大会、文化学習発表会では、全学年とも成就感を得た生徒が多く、学年を超えた仲間としての意識が高まった。	A	●朝通学しているときに、「おはようございます」と声を掛けると、自転車通学している生徒たちは、会釈をしてくれる。中には、声を出して挨拶してくれる生徒たちもいる。子供たちの心が育っているのが、見て取れる。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	●毎月の生活アンケートを行い、いじめの早期発見に努める。 ●Q-Uテストを実施し、分析結果を共有し、学級経営に反映させる。	B	●回答した職員の内、いじめやいじめ防止について、組織的に複数で対応できていると答えた割合は100%であった。ただし、無回答が、4名いた。 ●いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている生徒の割合は、90.7%であった。	A	●「いじめやいじめ防止について、組織的に複数で対応できている」という職員アンケートで、全員が当てはまる。 「どちらかといえば当てはまる」と回答しては、40名いた。 ●「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思っている生徒の割合は、90.7%であった。	A	●最近のいじめの定義では、「苦痛を感じたらすべていじめである。」というが、すべてを大人が解決したら、子どもたちに、人間関係調整力が育たない可能性がある。	生徒指導主事
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ②「体温・健康チェックカード」の提出100% ③「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上	●部活動時間の確保に努める。 ●昼休みにおけるグラウンドや体育館での運動の推進に努める。 ●日々の健康管理となる、毎朝の「体温・健康チェック表」を活用する。 ●食生活アンケートを行う。	B	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒73.3%であった。 ②「体温・健康チェックカード」の毎日の提出は、96.2%であった。 ③毎日朝食を食べている割合は、98.8%であった。	A	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒75.0%であった。 ②「体温・健康チェックカード」の毎日の提出は、98.0%であった。(2人毎日行っていない) ③給食や保健便り、食生活と健康の指導を行った。また、食育の講話も行った。保護者アンケートにより毎日朝食を食べている割合は、98.8%であった。	A	●家庭の事情で、「体温・健康チェックカード」を出していない子供たちには、学校で別途対応していただいている。 ●朝食をとっている生徒の割合は、かなり高いが、食事の内容についても、調査してみると課題が見えてくるかもしれない。	体育主任 養護教諭 安全教育担当
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	●定時退勤日の設定 ●学校開庁日の設定 ●部活動休止日の設定 ●施設時間の設定・掲示	A	●基本、部活動後のスクールバスが出発した後、1時間後に、学校を施錠するようにしており、職員にも呼び掛けている。	B	●基本、部活動後のスクールバス出発後、1時間後に、学校を施錠するようにしており、職員にも呼び掛けている。 ●水曜の定時退勤日は早く帰宅することを意識して仕事を行った。 ●水曜の部活動休止、土日どちらかの部活動休止は概ね守られている。	B	●適切に対応している。	管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○年休の取得を増やす。 ○超過勤務の時間を意識して仕事をさせる。	○全職員に年間5日以上年休をとらせる。 ○全職員の年間の超過勤務の時間を月平均を30時間以内にする。	●管理職が年休取得を推進することを職員に伝えるとともに、個別に声掛けを行う。 ●毎月、個人ごとに超過勤務時間(月ごとの時間と総時数)を知らせ、年間360時間を意識して仕事をさせる。	B	●8月末の時点で、年休を3日以上取得している職員の割合は、66.6%であった。 ●4月～8月の1か月1人当たりの平均超過勤務時間は、34時間41分であった。	B	●令和2年1月～12月の年休は全員5日以上取得した。また、年間一人当たり平均8日1時間33分年休を取得した。 ●4月～8月の1か月1人当たりの平均超過勤務時間は、平均35時間28分であった。(11か月の平均)	B	●適切に対応している。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員100%	●特別支援に関する研修会を実施する。 ●ケース会議の開催し、情報とそれに基づく対応方法を共有する。	A	●夏季休業中に、スクールカウンセラーを講師として、職員に一般的な研修と事例研修を行った。	A	●研修会を実施し、特別支援に関する知識を学んだ。 ●カウンセラーとの情報の共有などを行い、個に応じた対応方法を職員間で共有した。	A	●来年は、障害種が違う2つの学級ができる。また、普通学級の中にも、特別支援が必要な子供のおり、今後とも研修し、一人一人の特性に応じて対応してほしい。	特別支援教育コーディネーター
5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>●昨年度からの課題であった家庭学習の時間の確保、内容の充実をめざし、学習用問題集を取り入れ、学習の目標、中間の振り返り、最後の振り返りを行なった。さらに、育友会と連携して、家庭学習とスマートフォンの使用についてのルールづくりを行った。特に、3年生は、学習時間も急激に増え、テストの平均点数では、伊万里市内でもトップクラスの学力になった。 ●豊かな心を育てるために、学校行事の充実や道徳教育(人権・同和教育を含む)、自問清掃を充実させ、効果が上がっている。しかし、将来の夢を持っている生徒の割合が、全国平均と比べても低かった。次年度は、キャリア教育に力を入れる必要があると考えられる。 ●超過勤務時間の縮減は進んでいるが、月45時間以内は達成できたものの、年間360時間以内は今年度達成できなかった。次年度は、夏以降、すべての部活の顧問2人体制が整備されるので、更に超過勤務時間が減ると考えられる。さらに、いろいろな面で今後、学校、家庭、地域が連携して子どもを育てる学校を目指す必要がある。</p>									